

Histotaxonomical Study of Medicinal Ranunculaceae Plants

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Mikage, Masayuki メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/48138

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



薬用キンポウゲ科植物の組織分類学的研究

(課題番号：63540548)

平成元年度科学研究費補助金（一般研究C）

研究成果報告書

平成 2年 3月

研究代表者 御影 雅幸

(金沢大学薬学部助教授)

KAKEN
2009
21

薬用キンポウゲ科植物の組織分類学的研究

(課題番号：63540548)

平成元年度科学研究費補助金（一般研究C）

研究成果報告書

平成 2年 3月

研究代表者 御影 雅幸

(金沢大学薬学部助教授)



8000-09786-9

金沢大学附属図書館

研究組織

研究代表者： 御影 雅幸 （金沢大学薬学部助教授）
研究分担者： な し

研究経費

昭和63年度	1000	千円
平成元年度	800	千円
計	1800	千円

研究発表

(1) 学会誌等

- 御影雅幸, 中島由仁, 難波恒雄, “Clematis 属植物とその関連生薬の研究 (第8報), Clematis uncinata および近縁種の地上部に由来する「威霊仙」”, 生薬学雑誌, 44巻1号, 1990年4月.
- T.K.Rajbhandari, Masayuki Mikage and Mitsuo Suzuki, “Anatomical Study on Tuberos Roots of Aconitum Orochryseum(Ranunculaceae) and Nepalese Crude Drug Nirbisi”, J.Phytogeogr.& Taxon., Vol.38, No.1, June 1990.
(以上, 印刷中)
- 難波恒雄, 御影雅幸, 王 天志, “Coptis 属植物の生薬学的研究 (第1報), 中国産 Coptis 属植物と関連生薬の基源”, 生薬学雑誌.
- 御影雅幸, 王 天志, 難波恒雄, “Coptis 属植物の生薬学的研究 (第2報), 日本産 Coptis 属植物と関連生薬の基源”, 生薬学雑誌.
- 御影雅幸, 難波恒雄, “韓国に野生する Aconitum triphyllum Nakai の塊根の内部構造変異”, 生薬学雑誌.
(以上, 発表予定)

(2) 口頭発表

- 難波恒雄, 御影雅幸, 王 天志, “Coptis 属植物の生薬学的研究”, 日本生薬学会第35回年会, 1988年10月

研究成果

1. Clematis (センニンソウ) 属植物に関する成果 (5~16頁)

中国産の C.leiocarpa Oliv. および C.uncinata Champ. の葉の内部形態的特徴を明らかにした。その結果, C.leiocarpa を C.uncinata の変種 var.coriacea Pamp. とすることは不適當であることが明らかになった。また, 四川省産の漢薬「威靈仙」には両植物の地上部を基源とするものがあることを新知見として得た。とくに, C.leiocarpa に由来する威靈仙は, これまで文献的にも記載がなかったものである。

2. Aconitum (トリカブト) 属植物に関する成果 (17~25頁)

ネパール産の本属植物 A.orochoyseum Stapf の塊根の内部形態的特徴を研究し, ネパール薬物 NIRBISI と比較検討した。その結果, 従来 Delphinium 属植物の地下部に由来するとされてきた本生薬の一原植物として A.orochoyseum が利用されていることを新知見として得た。(17~23頁)

韓国に自生する A.triphyllum Nakai の塊根の内部形態を検討した結果, 皮層の厚さ, 皮層中の厚膜細胞の量, 形成層輪の形状などの要素は比較的安定しているが, 特に母根の維管束しょうの厚膜細胞の量は著しく変化することが明らかになった。(投稿準備中。変異を示す図を25~27頁に示す)

今回の一連の研究により, 本属植物の塊根の種による内部形態的特徴は, 従来指摘されてきた形成層輪の形状以外にも, 皮層の厚さ, 皮層中の厚膜細胞の量などにも認められることが明らかになった。

3. Coptis (オウレン) 属植物に関する成果 (28頁)

日本および中国産の同属植物全8種3変種の, 小葉, 葉柄および根茎の内部形態を詳細に検討した。その結果, 葉においてはとくにさく状柔細胞の大きさに特徴が認められ, 根茎においては厚

膜細胞の有無で日本産と中国産が区別されるなどの新知見が得られ、各種の内部形態的特徴を明らかにした。本結果に基づき、各地の市場で入手した本属植物由来の生薬の基源を明らかにした。(投稿準備中。本研究で明らかにした市場品の基源を28頁に示す)。

4. 富山医科薬科大学和漢薬研究所 民族薬物資料館書所蔵のネパールで採集された Ranunculaceae (キンポウゲ) 科植物標本リスト (29~37頁)

当資料館には過去15年間余に渡って蒐集された、日本各地、韓国、台湾、ネパール、スリランカ、中国大陸産の薬用関連植物のさく葉標本が多数収蔵されている。これらの資料の利用は一般に開放されているが、地理的に利用しがたく、未整理未同定標本も多い。これら貴重な資料の利用の便宜を図る目的で、今回、研究代表者が参加し採集したネパール産のキンポウゲ科植物を整理し、一覧表を作成した。